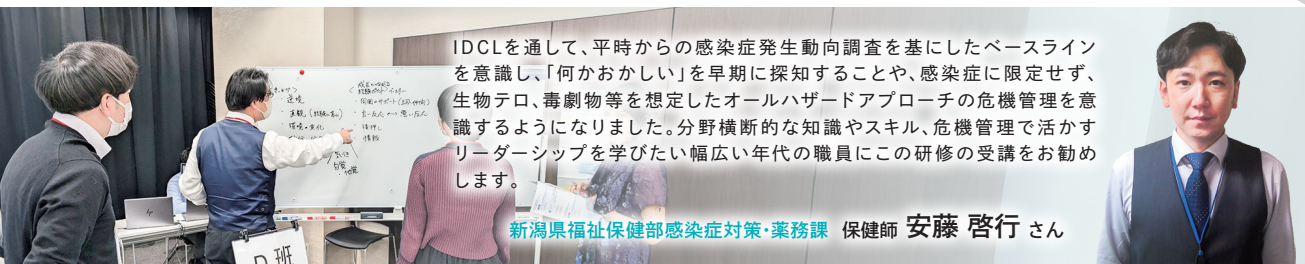
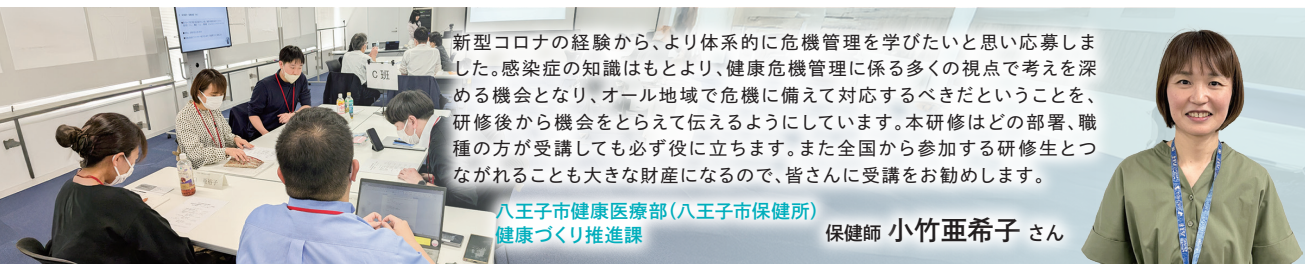


自治体でどう活かすのか？



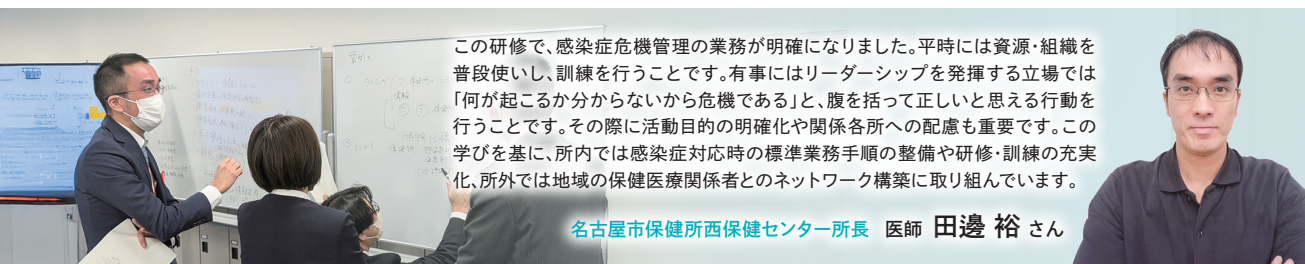
IDCLを通して、平時からの感染症発生動向調査を基にしたベースラインを意識し、「何かおかしい」を早期に探知することや、感染症に限定せず、生物テロ、毒劇物等を想定したオールハザードアプローチの危機管理を意識するようになりました。分野横断的な知識やスキル、危機管理で活かすリーダーシップを学びたい幅広い年代の職員にこの研修の受講をお勧めします。

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課 保健師 安藤 啓行 さん



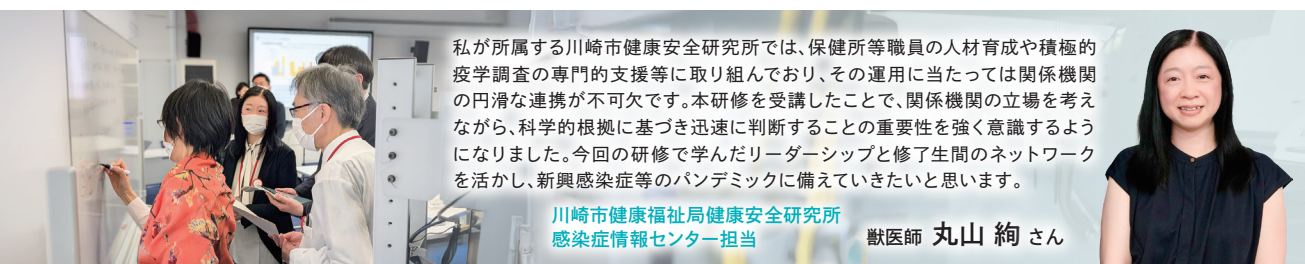
新型コロナの経験から、より体系的に危機管理を学びたいと思い応募しました。感染症の知識はもとより、健康危機管理に係る多くの視点で考えを深める機会となり、オール地域で危機に備えて対応するべきだということを、研修後から機会をとらえて伝えるようにしています。本研修はどの部署、職種の方が受講しても必ず役に立ちます。また全国から参加する研修生とつながれることも大きな財産になるので、皆さんに受講をお勧めします。

八王子市健康医療部(八王子市保健所) 健康づくり推進課 保健師 小竹亜希子 さん



この研修で、感染症危機管理の業務が明確になりました。平時には資源・組織を普段使いし、訓練を行うことです。有事にはリーダーシップを発揮する立場では「何が起こるか分からないから危機である」と、腹を括って正しいと思える行動を行うことです。その際に活動目的の明確化や関係各所への配慮も重要です。この学びを基に、所内では感染症対応時の標準業務手順の整備や研修・訓練の充実化、所外では地域の保健医療関係者とのネットワーク構築に取り組んでいます。

名古屋市保健所西保健センター所長 医師 田邊 裕 さん



私が所属する川崎市健康安全研究所では、保健所等職員の人材育成や積極的疫学調査の専門的支援等に取り組んでおり、その運用に当たっては関係機関の円滑な連携が不可欠です。本研修を受講したことで、関係機関の立場を考えながら、科学的根拠に基づき迅速に判断することの重要性を強く意識するようになりました。今回の研修で学んだリーダーシップと修了生間のネットワークを活かし、新興感染症等のパンデミックに備えていきたいと思っています。

川崎市健康福祉局健康安全研究所 感染症情報センター担当 獣医師 丸山 絢 さん

Q&A

Q 研修期間中の給与の取扱はどうなりますか？

研修期間中の給与・手当等は、派遣元自治体にてご負担いただくこととなります。

Q 修了証はどの機関名で発行されますか？

厚生労働省名での発行を予定しています。

Q 受講料は発生しますか？

受講料は発生しませんが、移動費、交通費、食費、滞在費、外部研修などの費用は、自己負担もしくは所属機関による負担となります。

Q 同一自治体から複数名応募することは可能ですか？

同一自治体からの複数名による応募も可能ですが、様々な自治体の方に受講していただきたいため、定員に対する応募状況等も鑑み、総合的に判断させていただきますのでご了承ください。

推薦文



国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 国際感染症センター センター長 大曲 貴夫

自分の経験を振り返ってみると、感染症を含む危機管理の際には、普段と違うメンバーで、普段と違うペースで、普段とは異なる緊張下で、業務を進めていかねばなりません。よって平時の業務で専門の知識や経験を培っておくだけでなく、リーダーシップの素養を修練しておくことが重要です。幹部だけでなく、若手でも必要です。本コースの受講を強くおすすめします。



国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局感染症危機管理部 部長 齋藤 智也

感染症危機管理の強化には、国や地域の関係者との縦の連携と、国や地域内の関係者たちの分野横断的な横の連携が必要です。危機管理の縦糸と横糸を張り巡らし、紡ぐリーダーシップをぜひこの研修で学んでいただければと思います。



国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長 富尾 淳

地域の感染症危機管理を担う皆さんには、平時からリーダーシップを発揮し、地域の体制・資源を戦略的に整備するとともに、危機時にはこれらを効果的に運用し対処することが求められます。本研修は、感染症危機管理に必要なリーダーシップについて体系的に学ぶことができる貴重な機会です。来るべき感染症危機に備えて、本研修の受講を強くおすすめします。



全国保健所長会 会長(久留米市保健所 所長) 藤田 利枝

感染症パンデミック時には、様々な垣根を超え地域全体が一つになる事が求められます。保健医療行政組織において健康危機発生時に感染症危機管理の領域でリーダーシップを発揮して関係機関をつなぎ、効果的で実効性のある対策を推進するための能力、本研修ではそれが磨かれます。職種を問わず地域において感染症危機管理の領域でリーダーシップを発揮することを期待される方のご参加をお勧めいたします。



全国衛生部長会議員(神奈川県 健康医療局 医務担当部長) 山崎 元靖

リーダーシップの理論と実感を系統的に学ぶことは、危機対応にあたる組織の全ての人に意義があるものです。必ず発生する次の感染症危機では、みなさんは、どんな立場で対応しているのでしょうか？そんなことを想像しながら、是非、積極的に受講を検討していただければと思います。



厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課 課長補佐 岡 邦子

厚生労働省では、感染症危機が発生した時にリーダーシップをもって地域の危機対応に取り組む人材を育成する研修を実施しています。研修では感染症危機時に求められる戦略の策定や実行力、関係機関との協働を促進する調整力等のスキルアップを目指します。対象は医療系の資格保有者に限りません。若手や女性も含めた多様な職種の方のご参加を期待しています！

感染症危機管理リーダーシップ研修 事務局
(厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業)
〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局 企画調整部 政策研究課 研究開発連携室
Email: le-jinzai@jihs.go.jp TEL: 03-3202-7181(代表)
※お問い合わせは原則、Emailをお願いします。
※国立国際医療研究センター及び国立感染症研究所は、令和7年4月1日より「国立健康危機管理研究機構」に組織統合しました。

令和7年8月1日作成



感染症危機管理
リーダーシップ
人材育成事業

厚生労働省委託事業

感染症危機管理リーダーシップ研修 (IDCL: Infectious Disease Crisis Leadership Program)



A 3D map of Japan is shown in a light blue color. Two people, a man in a blue shirt and a woman in a green dress, are standing on the map, looking at each other. Another person in a white lab coat is standing on the right side of the map, holding a clipboard. The map is set against a white background with a blue border at the bottom.